

山口県獣医師会会報

Monthly Report of the Yamaguchi
Veterinary Medical Association

第 742 号 令和 5 年 3 月

令和 4 年度第 2 回支部長会議開催報告

常務理事 酒 井 理

令和 5 年 2 月 16 日(木)午後 1 時 30 分から県獣医師会館 2 階会議室において、令和 4 年度第 2 回支部長会議が開催されました。

田中尚秋会長から平素からの会務運営の協力・支援に対する謝辞等の挨拶の後、次の 5 件の議題について協議していただきました。

議題 1 令和 4 年度事業実施状況

議題 2 令和 5 年度事業計画(案)

議題 3 会員の休会制度

議題 4 地方獣医師会会員組織率の向上対策

議題 5 山口県獣医師会館検討会議報告

議題 1 では、事務局から年度後半の事業実施状況について報告しました。主な内容は次のとおり。

- ・11月に産業動物、12月に獣医公衆衛生、1月に小動物(1回目)講習会を開催し、3月5日(日)に第2回小動物講習会を予定していること
- ・犬・猫のSFTS検査では、今年度5件の陽性事例があり、臨床症状を本会HPに掲載したこと
- ・令和5年度狂犬病予防注射に向け、希望する市町の「犬の登録鑑札」と「狂犬病予防注射済票」を本会で一括作製・配付するとともに、動物病院で使用する狂犬病注射ワクチンを一括発注したこと
- ・狂犬病予防啓発ポスター・チラシを作成し、動物病院、ペットショップ、図書館等に配付したこと
- ・日本獣医師会が一括作成した「がっこう動物新聞」を、動物病院、小学校・特別支援学校、図書館等に配付したこと
- ・個体識別措置の推進に向け、希望する動物病院に、啓発用のマイクロチップを配付したこと
- ・愛玩動物看護師法制度や国家試験等に関する情報を小動物部会員に提供したこと
- ・小動物部会員対象の各種保険や国民年金基金制度の仲介や証明書等の様式の斡旋等を行ったこと

議題 2 では、令和 5 年度の事業計画(案)について報告しました。主な内容は次のとおり。

- ・獣医学術の振興では、県学会を 8 月 27 日(日)に山口市の防長苑で開催することを検討していること
- ・中国地区学会が 9 月 30 日(土)~10 月 1 日(日)に鳥取県米子市で、日本獣医師会獣医学術学会年次大会が 12 月に神戸市で開催される予定であること
- ・本会主催の講習会は、例年どおり開催する予定として、新年度にそれぞれの部会委員会で、講習会のテーマ、講師などを検討していただくこと
- ・家畜衛生・畜産振興支援、公衆衛生の向上・普及啓発等、動物の愛護・保護等の事業についても、例年どおり予定していること

- ・災害時動物救護・支援では、県と本会との協定の締結について検討しており、今後、具体的な実施体制について協議する予定であること

- ・「チーム獣医療」体制づくりでは、新たに誕生する愛玩動物看護師との連携等について、小動物部会で検討していただく予定であること

事務局の説明に対し、「山口獣医学雑誌を作成する意義」について照会があり、「本会は、学術団体として公益法人の認定を受けており、山口獣医学雑誌は柱の一つである」と説明しました。また、出席者から、「検索サイトから山口獣医学雑誌に掲載されている論文を引用することができ、学術的な意義はある」との発言がありました。

議題 3 は、日本獣医師会が若年獣医師の退会を防ぐために、休会中の会員の日獣会費を免除することとしたことを受けて、本会への新たな会員の休会に関する制度の導入について、1月の総務委員会での意見を踏まえ、修正した会員の休会に関する規程(案)について報告しました。3月に開催する第4回理事事に諮ることとしています。

《規定(案)の概要》

- ・休会制度の適用を、「出産・育児・介護」、「長期入院・療養」、「失業・廃業」とし、他の理由については、理事会の承認を得る
- ・休会中の会費を免除する期間を最長3年間とする
- ・休会中の会員は、総会での議決権はないが、日本獣医師会雑誌等の配付や学会・講習会等への参加などの権利は一般会員と変わらないものとする

議題 4 は、日本獣医師会が取り組みを進めている地方獣医師会の組織率向上に呼応し、県内に在住または勤務している獣医師への入会の働きかけについて報告しました。今後の取組(案)は次のとおり。

- ・各支部において、支部内の該当者に獣医師会への入会の呼びかけをお願いしてきたが、今後は、必要に応じ、本会からも働きかけることとする
- ・山口大学共同獣医学部の卒業式に会長が出席して、卒業生に入会を呼びかける等の取組をおこなう
- ・「日獣雑誌等、各種印刷物の提供」、「メールやHP等での最新の情報を提供」、「本会や中国地区獣医師会連合会が主催する各種講習会への無料参加」、「中国地区学会発表者の交通・宿泊費の本会負担」等の会員向けのサービスについて説明することとする

事務局の説明に対し、「会員以外の獣医師が講習会に参加する際は、参加費を徴収しているのか」と質問があり、「会員以外からは3千円の参加費をい

ただいている」と説明しました。また、「動物病院に勤務する代診の獣医師の把握が難しい」との意見に対し、出席者から「動物病院に勤務する獣医師の獣医師会会費を動物病院が支援している」との発言がありました。

議題5は、令和3年度第3回理事会において設置

が承認された「山口県獣医師会館検討会議」における検討状況について、検討会議議長の宇部厚狭網本昭輝支部長に報告していただきました。

第1回総務委員会開催報告（本会会報令和5年2月号）に掲載しましたので報告内容は省略します。

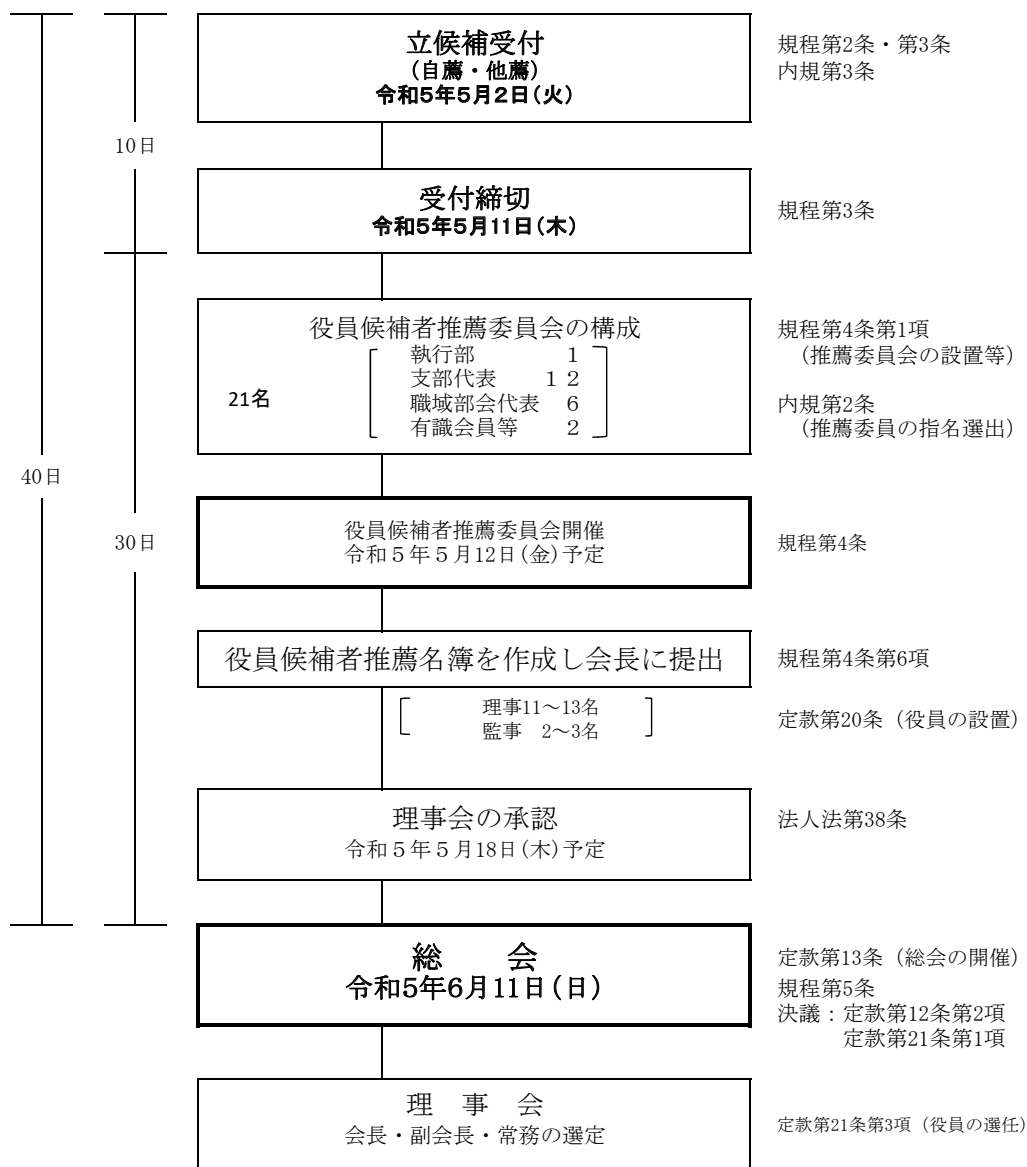
告示 任期满了に伴う山口県獣医師会役員選任に係る候補者の受付

令和5年度定時総会をもって、現役員の任期(2年)が満了します。これに伴う新たな役員選任に係る候補者の受付を、定款第20条、役員候補者選任規程第2条・3条並びに同内規第3条に定めるところにより、下記のとおり受け付けることとします。

記

- 1 受付期間 令和5年5月2日(火)～令和5年5月11日(木)
- 2 届出用紙 自薦の場合：役員立候補届（別表1-1）
他薦の場合：役員立候補推薦届（別表1-2）
- 3 その他
 - (1) 届出用紙は各支部又は本会あて請求してください。（本会ホームページにも掲載します）
 - (2) 封書に「理事候補届」、「監事候補届」と朱書きの上、本会事務局あてに送付してください。

役員選任のフロー



[通知及び公示]

規程第6条

[別表1-1]

役員立候補届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に役員候補者推薦規程第2条に
理事または監事に○をお付け下さい

より、立候補します。

記

- 1 氏名
- 2 住所
- 電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

公益社団法人 山口県獣医師会
会長 様

令和 年 月 日
氏名 _____ 印

[別表1-2]

公益社団法人 山口県獣医師会
会長 様

令和 年 月 日
推薦者氏名 _____
推薦者住所 _____

役員候補者推薦届

この度の山口県獣医師会役員（理事・監事）に下記の者を適任者と認め役員
理事または監事に○をお付け下さい

候補者推薦規程第2条により、本人の承諾を得て推薦届を提出します。

記

- 1 候補者氏名
- 2 住所
- 電話
- 3 生年月日
- 4 主要な経歴

上記については立候補することを承諾します。

令和 年 月 日
氏名 _____ 印

眼にも心にも優しい

防府支部 豊川 剛
(とよかわ動物病院)

まだまだ寒い日が続いていますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

私事ではございますが、開業して5年が経ちました。もともと不器用なこともあり色々と余裕がなく日々必死に生きております。

そんな5年の間で、我が家でいつの間にか増えていったものがあります。それは「観葉植物」です。

何か部屋に緑を取り入れたいと1株のエアプランツを買ってきたのが始まりなのですが、あるとき花を咲かせてくれたのが嬉しくて、そこから他の観葉植物にも手を出し始めました。

以前から好きだったビカクシダ（コウモリラン）や、育てやすいと言われたサボテン、かっこいいなと憧れたアガベなど、いつの間にか増えていきました。

我が家には猫がいるので、置く場所などには注意が必要ですが、そういった対策をしっかりとしながら癒しを与えてもらっています。

一口に「観葉植物」と言っても多種多様で、見た

目も違えば当然それぞれに適切な水分量・温度・日の当て方などがあります。初めのうちは枯らせてしまうのではないかと怯えながら育てていましたが、最近ではだいぶ慣れてきたようで、葉の状態や土の湿り具合などで水量の調節等行っているのではないかと思います。

森林浴などで耳にするフィトンチッド（ざっくり言うと、リラックス効果・ストレス軽減効果がある香り）が我が家にある観葉植物たちからも放出されていることを祈っていますが、なによりも多彩な姿に癒されています。

自然豊かな山口県に生まれ、祖父母の家に遊びに行っては野山を駆けめぐる身としては、家の中でも緑があることで眼にも心にも優しいなど感じる日々となっています。

皆様も日々のお仕事に疲れてしまった際には是非、自然でも観葉植物でも、緑を求めてお出かけされてはいかがでしょうか。



ビカクシダ・エアプランツ・サボテン



エアプランツ・トックリラン・リプサリス・ビカクシダ



リレー随筆

明治生まれの先輩獣医師

長北支部 重本志乃
(西部地区家畜診療所)

昔々の平成初期、私が学生の頃まだインターネットがなく、獣医学的資料を探すには大学図書館だけが頼りでした。書架から書籍や雑誌を探し出しコピーを取っていた頃から四半世紀が経過した現在では、ネット検索すると膨大な資料が出てくるようになりました。

先日、牛の子宮脱について検索していると、パソコン画面に表示された資料の中に「牛の子宮脱 応用獣医学雑誌1936」(実際は旧字体表記)というものがありません。1936年って戦前でしょ、医学も獣医学も黎明期、検査や薬品が充実しているわけでもないし、現代からみれば的外れな治療もなされていた時代の資料が出てきたわ、古文書として面白いかもと、かなり上から目線の態度でその資料に目を通してみました。すると…そこには90年前の獣医師の情熱がありました。

以下、応用獣医学雑誌、9.(5).304-306.1936から一部引用しつつ紹介致します。著者は東京の鈴木國藏獣医師。おそらく明治生まれ。私からは曾祖父の世代と思われる。

- ・症例 第二神子号 ホルスタイン 大正9年生 16歳
- ・昭和10年9月22日午前8時 雌子牛を安産 分娩予定日(278日)より15日早い。
子牛の発育及び栄養状態尋常、母体の栄養は良好。胎盤停滞。
- ※当時は278日で計算していたのですね。
- ・同日午後3時、産房内にて横臥中、子宮全脱。早速、胎盤を丁寧に剥離した後、子宮を洗浄消毒の後、白布を広げて子宮を載せ2名の助手に保持せしめ、動物に起立を促し、熟練せる助手と共に子宮を整復。所要時間約40分。
- ・子宮に大なる損傷を与えずして還納整復を了したのであるが、衰弱著しい。
- ・体温39.2℃、心音弱、食思全くない、カンフル10ml皮下注、食塩水2Lを脈管に注射
- ・夜中、体温39-39.4℃
- ・9月23日午前1時半、体温39.4℃。午前5時、39℃。心音弱く不調。

※先生、牛舎に留まったのでしょうか。ほとんど寝てない？

- ・午後1時、芥子泥を右腹部に塗る。
- ・午後2時、カンフル皮下注。動物憔悴、食思なく水約7升をすするのみ。試みにフスマを与えるも之を顧みない。

- ・午後4時、子宮の洗浄を行う
- ・9月24日午前9時、体温39℃、症状悪しく経過不良。食欲勿論なく、辛うじて水1升をすするに過ぎず。食塩水2L脈管注、カンフル10ml皮下注。前日同様子宮洗浄および芥子泥の塗布を行う。
- ・9月25日午前9時、遂に鬼籍に入るの報に接した。付記
- ・種々手を尽くした心算であるが、刻刻病状悪化するのみであった。
- ・余は今日まで累々子宮脱に遭遇しているが、本牛の如く脱出後直ちに整復し、何等無理するところ無く短時間に還納されたものが、其の後の経過すこぶる不良にして遂に斃死するに到ったことは意外とする程である。
- ・だが16歳という老齢であり、子宮脱による全身的衰弱顕著にして、迅速に整復されたにせよ之に耐える体力を有しなかつた事は死の転帰の最大の原因であると思ふのである。

…鈴木國藏先生、お疲れさまでした。おそらく徒歩か自転車で患畜へ向かい、牛舎に深夜早朝まで留った先生と、子宮脱は問題なく治ったのにどんどん衰弱して死亡した患畜。そしてその経験を乳牛方面の臨床家にとって幾分参考に資することなればと敢えて掲載を乞うた次第である

と記録し発表された心意気。私、上から目線で読み始めてすみませんでした、若輩者ながら今後も精進いたします…という気持ちになりました。

鈴木先生の発表から約90年。検査体制や医薬品の充実、農業共済制度の拡充(と、さりげなくNOSAIアピール)と状況は変わりましたが、獣医師の持つ情熱は戦前も令和も変わらないと思える資料でした。

今回は先ほど手術2件を終えてさわやかにカルテを書いている、同じ職場の近藤先生にリレーします。



日本海を望む棚田

牛のピロプラズマ病を顧みて

岩柳支部 三好雅和

令和4年12月16日の日本農業新聞に「和牛子牛1000万円 産地が沸いた」という沖縄県八重山家畜市場の記事が出ていました。沖縄県内では過去にバベシア病 (*Babesia bovis*, *Babesia bigemina*) の発生が繰り返され、大きな被害が出ていたことを考えると隔世の感がしました。平成12年3月に発行された「オウシマダニ撲滅記念誌 (沖縄牧野ダニ撲滅記念事業推進協議会)」によると沖縄県ではバベシア病が昭和6年に本島及び宮古群島で、昭和9年には八重山群島で大発生するなど、各地で発生しその対策に苦慮されています。バベシアはオウシマダニが媒介することから、第2次大戦後から有機塩素系薬剤を用いた殺ダニ対策に取り組み、昭和29年から薬浴槽を用いた対策も開始されています。昭和40年代には有機リン系薬剤による薬浴、薬剤噴霧、草地への空中散布が行われたものの、発生が繰り返されています。そのような中、本土復帰前の昭和46年から農林省が沖縄牧野ダニ駆除促進事業を立ち上げて官民一体となった取り組みが開始されています。事業開始前、農林省の担当官が石垣島などの放牧地や繋牧地の牛を見て「骨と皮の牛がダニの鎧を着ている。よく生きているもんだ。」という発言があったことが記録されています。事業が開始されましたが一進一退であり、特に八重山地域では事態が深刻であるため、昭和52年には沖縄県告示で「八重山地域からの牛の移動について、ピロプラズマ病及びアナプラズマ病にかかっておらず、かつ、ダニの駆除がなされた旨の証明書の添付の義務付け」といった対応まで行われています。しかし、薬剤抵抗性ダニが確認されるなど、その後もバベシア病の発生が繰り返されています。また、薬浴による多数の子牛の中毒死事故も起きています。しかし、平成元年からフルメトリン製剤のポアオン法によるダニ駆除に徹底的に取り組み、以後は各島単位で逐次撲滅を達成しています。その結果、バベシア病は平成5年の発生を最後に見られなくなり、平成11年には牧野のオウシマダニの撲滅を確認したことから先の告示は廃止されています。関係者の努力で「骨と皮の牛がダニの鎧を着ている。」は遠い過去の話となり、現在は肉用牛の主要な産地の一つとなっています。バベシア病及び牧野におけるオウシマダニ撲滅は多大な苦労の上に達成された優れた業績です。疾病撲滅が畜産振興や地域振興に貢献した事例であり、米国での牛テキサス熱の撲滅、日本国内での日本住血吸虫症の撲滅などにも匹敵する事例と思います。

一方、沖縄県ではバベシア病が問題でしたが、その頃、国内各地の放牧場では小型ピロプラズマ病 (*Theileria orientalis*) が大問題でした。本県の放牧場でも多発しており大変だったことを思い出します。治療は殺原虫剤 (8アミノキノリン製剤、ジミナゼン製剤)・強肝剤の投与や補液を中心に行っていましたが、ヘマトクリット値が10%台となり生存が危ぶまれるような状況にな

ると輸血も行っていました。輸血は病原体感染の危険性があるのですが、当時の現場ではそうせざるを得ない状況でした。また、ダニ駆除は有機リン製剤やカーバメト系薬剤の牛体噴霧やダストバックで牛体に散布する方法でしたが、小型ピロプラズマを媒介するフタトゲチマダニの対策に苦慮していました。その後、平成に入ると全国的にフルメトリン製剤のポアオン法によるダニ駆除が広く行われるようになり、発生はかなり抑えられてきました。しかし、フタトゲチマダニは3宿主性であるため1宿主性のオウシマダニとは異なり牧野の清浄化は極めて困難であり、近年でも国内で時々発生報告があります。現在、有効な殺ダニ剤のおかげでピロプラズマ病が問題となることは少なくなりましたが、適切な対応がなされなければ再燃する恐れがある疾病です。

なお、前記の「沖縄県オウシマダニ撲滅記念誌」は現在入手困難ですが、沖縄県庁の方に確認したところ、「沖縄県ホームページに同様の内容が沖縄県家畜衛生試験場80年史の中に掲載されているのでそちらを参考にしてください。」とのことでした。疫学や寄生虫学に興味がある方は是非読まれたらいいと思いますので、紹介させていただきます。



令和4年12月16日 日本農業新聞 記事



オウシマダニ撲滅記念誌 (平成12年3月、沖縄牧野撲滅記念事業推進協議会発行)

2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等への支援について

公益社団法人日本獣医師会から、次のとおり協力依頼がありました。趣旨に賛同される会員の方は、3月24日までに、本会事務局に連絡して下さるようお願いいたします。

4日獣発第304号
令和5年2月16日

地方獣医師会会長 各位

公益社団法人 日本獣医師会
会 長 藏内勇夫

2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等への支援について

本年2月6日にトルコ南部を震源として発生したマグニチュード7.8の大地震は、トルコ及び隣国シリアにおいて多数の人命が失われた旨報道がなされており、被災された方々に心よりお見舞い申し上げるとともに、一日も早い復旧を祈念する次第です。

このような震災発生後の人と動物の救護活動、避難生活等の環境下においては、野外からの感染症に罹患するリスクが高まるとともに、避難先等密集した状況においては感染症の拡大も懸念され、本会が提唱している医学、獣医学、環境学を踏まえた、ワンヘルス・アプローチによる一体的な取組みが不可欠です。

つきましては、本地震におけるワンヘルス救護活動等への取組み等に対する支援金の募集を下記のとおり実施することといたしましたので、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

記

2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金の募集

(1) 支援金募集の目的

今回の2023年トルコ南部地震に対し、次の支援活動を実施するため、「2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金（以下「支援金」という。）」を募集します。

(2) 応募の方法

地方獣医師会におかれては、別紙「2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金」募集要領を参照のうえ、会員構成獣医師等からの支援金の募集活動に取り組んでいただき、取りまとめた支援金（自らの拠出を含む。）を別紙の支援金振込口座へ振り込み願います。

なお、本支援金は、特定公益増進法人等寄付金特別控除の対象となりますので、募金をされた会員構成獣医師が税務申告等のため、受領書（領収書）を必要とされる際は、①会員構成獣医師が地方獣医師会へ送金した日付、②氏名（受領書に記載する氏名となります。）、③住所、④募金金額を取りまとめの上、メールにてご連絡願います。後日、本会から地方獣医師会に当該会員構成獣医師宛の受領書（領収書）を郵送させていただきます。

(3) 支援金の送金先

地方獣医師会からの支援金は本会から駐日トルコ共和国大使館及び日本赤十字社等へ寄付金として送金いたします。

公益社団法人 日本獣医師会 「2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金」 募 集 要 領

1 趣 旨

日本獣医師会は、会員地方獣医師会、会員構成獣医師等の支援・協力の下で、2023年トルコ南部地震におけるワンヘルスアプローチに基づく人と動物の救護活動等（以下「救護活動」という。）の支援等を目的として「2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金」を募集する。

2 支援金の名称

2023年トルコ・シリア地震ワンヘルス救護活動等支援金

3 募金の期間

令和5年2月から令和5年3月末日

4 支援金の募集と振込み（寄附）先

会員地方獣医師会は、前記1の趣旨を受け、会員構成獣医師からの支援金の募集活動に当たっていただき、取りまとめた支援金（自らの拠出を含む。）を所定の支援金振込口座に振り込むこととする。

5 支援金の使途

前記4により所定の支援金振込口座に入金された支援金は、在日トルコ共和国大使館及び日本赤十字社等の募金口座等へ寄付を行う。

6 税の優遇措置

本会は、内閣総理大臣より「公益社団法人」としての認定を受けているので、本会への寄附金には、特定公益増進法人としての税法上の優遇措置が適用され、所得税(個人)、法人税(法人)の控除が受けられる。また、税額控除に係る証明を取得しているため、個人様の寄附については前記（所得控除）とのいずれか一方を選択することができる。

訃報

山縣純次先生のご逝去を悼む



下関支部の山縣純次先生が2月12日に心不全のためご逝去されました。享年91歳でした。

先生は昭和27年に山口獣医専門学校を卒業後、旧山陽町で畜産動物の診療に従事された後に、昭和38年から下関市にて小動物診療にあたられ、令和3年7月に、動物病院を閉院されました。

昭和46年に日本小動物獣医師会に創立発起人とし

下関支部長 山中俊樹

て参画され、昭和54年、麻布大学にて犬の歯科インプラントの研究により獣医学博士号を受けられました。

また、日本獣医師会理事、日本小動物獣医師会副会長、山口県獣医師会理事、下関支部長、下関市開業獣医師会長などを歴任され、獣医学術の振興・普及、獣医療技術の向上に多大な貢献をされました。

2月15日にベルコシティホール下関にて山口県獣医師会田中会長参列のもとしめやかに葬儀が営まれました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

訃報

松本敏夫先生のご逝去を悼む



山口支部会員の松本敏夫先生が2月19日に老衰（肺水腫）のためご逝去されました。享年96歳でした。

先生は大正15年に山口市阿知須でお生まれになり、昭和24年に山口大学農学部獣医学科の前身である山口獣医畜産専門学校を卒業後、同年に山口県技術吏員として山口県に奉職され、県内の各保健所に勤務の後昭和60年に県を定年退職し、その後、(株)山口県環境衛生連合会に13年間勤務されました。

この間、山口県の食品衛生・環境衛生や試験検査等に活躍・貢献され、昭和58年には厚生大臣感謝状を授与されるなど、その功績は顕著でした。

また、獣医師会においても山口支部副支部長を10

山口支部長 藤原宣義

年続けられるなど、会の活動・発展に多大なご尽力を戴き、平成21年に日本獣医師会会長表彰を授与されています。

先生は多彩な趣味の持ち主で、昨年までは旅行や自動車の運転又自前の小舟で釣りに出掛ける等、至って元気に楽しく過ごされておりましたが、今年に入って怪我により入院を余儀なくされ、その後肺水腫の発症などで急激に体力を落とされ、19日の夜に穏やかに永眠されました。入院中はコロナの関係でご家族の面会が思うに任せず寂しい思いをさせたことを長男の修さんは残念がっておられました。

葬儀は宇部市東岐波の安穩会館で浄土真宗本願寺派により、関係者等の参列の中しめやかに営まれました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

令和4年度毒物劇物危害防止標語入選作品

最優秀賞

安全は つもりやはずでは守れない みんなの命に予備は無い
東ソー株式会社 南陽事業所 須崎 久雄

優秀賞

毒劇物 いつもと違うは何かのサイン 点検強化で防ぐ事故
日鉄ステンレス株式会社 山口製造所 周南エリア 古木 孝司

過信せず 油断せず 正しい手順で安全確保 未来に繋ぐみんなの笑顔
徳山ポリプロ株式会社 徳山工場 高光 浩司

佳作

毒劇物 扱う責任 危険と恐れ あらゆる予知で無災害
東ソー株式会社 南陽事業所 野村 富士恵

いつもの作業 視点を交えて新たな発見 危険と気づく知識と経験
東ソー株式会社 南陽事業所 高木 英幸

無知と油断が危険を招く 正しく知ろう毒劇物
日鉄ステンレス株式会社 山口製造所 周南エリア 火除 知輝

お願い

会員異動報告について

人事異動等で、会員の所属・住所等の変更があった場合は、すみやかに所属支部事務局に「会員異動通知書」を提出してください。手続きが遅れると、「日本獣医師会雑誌」をはじめ、(公社)日本獣医師会や本会からの通知等が届かなくなりますので、よろしくお祈いします。

※様式は本会ホームページに掲載しています。

お知らせ

本会主催講習会のテキスト・映像について

本会が主催した産業動物・小動物・獣医公衆衛生の各部門の講習会のテキストと映像を本会ホームページ（会員専用コーナー）に掲載していますので、関係会員の方はご活用ください。

お知らせ

令和5年3月の主な行事

- 3月5日 ・第2回小動物講習会（防長苑）
- 3月13日 ・山口県家畜保健衛生業績発表会（県庁）
- 3月14日 ・山口県動物愛護管理推進協議会（県庁）
- 3月16日 ・第4回理事会（県獣会館）
- 3月22日 ・日本獣医師会第5回理事会（東京）
- 3月23日 ・山口大学共同獣医学部獣医学科卒業証書授与式（山口大学）
- 3月30日 ・災害時動物救護対策委員会（県獣会館）

事務局だより

- | | |
|---|--------------------------------------|
| 2月2日 ・県生活衛生課協議（県獣会館） | 2月16日 ・支部長会議（県獣会館） |
| 2月3日 ・第6回獣医学教育改革推進連携協議会（山口大学） | 2月20日 ・日本獣医師連盟通常総会（東京） |
| 2月3日 ・馬飼養衛生管理技術地方講習会（山口グランドホテル） | 2月20日 ・第28回毒物劇物安全管理研究会（オンライン） |
| 2月13日 ・令和4年度やまぐち働き方改革シンポジウム
（KDDI 維新ホール） | 2月21日 ・会報編集委員会（県獣会館）
2月9日 ・事業推進会議 |

次回編集委員会 3月28日(火) 13:30~

山口県獣医師会会報 第742号 令和5年3月10日（毎月1回発行）

発行所 (公社)山口県獣医師会(〒754-0002 山口県山口市小郡下郷1080-3)

電話 (083) 972-1174 FAX (083) 972-1554

e-mail:yama-vet@abeam.ocn.ne.jp

http://www.yamaguchi-vet.or.jp

編集責任者 豊川 剛

発行責任者 田中 尚秋

印刷 コロニー印刷